

## 令和2年度 岐阜県人権懇話会 会議要旨

日時：令和2年11月27日（金）14：00～15：30

会場：岐阜県水産会館 大会議室

- 議題：（1）岐阜県の人権施策の取組状況について  
（2）意見交換  
（3）その他

（委員）

啓発活動も大事だが、今後は、「パートナーシップ制度」や「条例制定」のような取組みを、岐阜県においても強化していただきたい。

男女共同参画に関しても、例えば選択的な夫婦別姓や女性のリーダー登用割合などの取組みは、啓発と両輪になることによって進むのではないか。国の動きを待つことなく、地方自治体でやれることを具体的に取組んでほしい。

（委員）

これまでに様々な女性の運動があり、法的整備がされてきたが、なかなか男女共同参画社会が実現しない。次世代に対しては、女性も男性も一人の人間として当たり前で生きられる社会をつくるためにも、言い続け、行動し続け、活動し続けることが大事だと思っている。

行政においても、政治や社会、企業等に対し、例えばクォーター制の整備などについて積極的な働きかけをすることが必要なのではないか。

（委員）

いじめについては、学校が何よりも真剣に取り組まなければならないものだと思っている。いじめ事案に関する調査結果については、学校の問題点が公表されているが、調査がプライバシーの観点から加害者の親や加害者自身には行われず、学校だけに限定して行われていることは明らかにされていない。

外国人の技能実習生に対する不当な取扱いを無くすため、具体的なアクションをお願いしたい。

（委員）

最初に「男女共同参画」という言葉を聞いてから30年が経ち、LGBTなどが話題になっている現在でも、まだ「男女共同参画」という言葉を使っているのかと思う。

「ボケ老人」が「認知症」という言葉に変わり、その言葉が定着し受け入れられるようになったように、徐々に慣れて当たり前になり、それが意識に落とし込まれるということもあるので、是非、県のリーダーシップで変えてほしい。

(委員)

言葉自体を変えて、今の子どもたちが大人になったときに、それが当たり前になっているという状況が、効果的ではないかと思う。

コロナ禍において、報道機関の発信する言葉や表現、個人の特定につながる情報が差別の引き金になったりする、ということが言われている。

差別をなくそうという呼びかけも大事だが、ネットパトロールの結果を、事例としてオープンにしていってはどうか。犯罪となる事例を伝えることが抑止力になると思う。

(委員)

隣保館は、地域社会の福祉の向上や人権啓発のための住民の交流拠点であり、各種相談事業や人権課題の解決のために各種事業を行っているが、現在は相談件数も減少しており、特に子ども達には、同和問題を理解するのは難しく、単なる公民館だと思われる。教育の観点からも、同和問題について広報や啓発事業を進めていく必要があると感じている。

(委員)

今、部落差別の問題、同和問題で一番大きいのは、同和地区と言われているところに暮らしている人たちが、自分が何者かということに答えきらないために、実感がないということである。あと2年で水平社100年になるが、同和施策の成果と課題に、しっかり触れていくことが重要だという気がしている。

(委員)

人権問題は非常に難しく、解決に努力のいる問題ということで、聞く方も話す方も身構えて硬くなってしまふ。様々な分野における差別問題や人権問題は、長年にわたり解決しづらいものである。その上に次々と新しい問題が発生し、さらに解決の努力を要するという状況にあるため、人権問題を聞く側も話す側も、もう少し気楽に自分自身の心に直結するような声として受け取り、話ができないかと思っている。

コロナハラスメントは、まさに人権問題そのものである。全ての人権問題の根っこは一つであり、人の心の痛みを自分自身の痛みとして考えられるかということである。人から教えてもらうのではなく、自分の発言や行動に対する相手の思いやその解決方法を、自ら考え、行動に移すような社会にしていかなければならない。

コロナハラスメントにも、偏見に基づく言動や悪意に基づく差別はある。しかし、圧倒的に多いと思われるのは、加害者が恐怖心を持っており、怖いものを避けたい、遠ざけたいという気持ちから、医療従事者や元患者にも近づいてほしくないという思いになり、客観的に許されないような言動をする場合が多いと思われる。これは「善の差別」もしくは「官許の差別(公が許す差別)」と言われることがあるが、こうした言動の原因は、広報の仕方の問題もあるが、行政が、コロナは「怖い」「避けるべき」「ひどい状況だ」ということを繰り返し発信することにより、結果的に「怖い」という意識だけが残ってしまっているということではないかと思う。

差別問題の根っ子は共通だが、表面的に出てくる差別状況は異なるため、各々の問題に特

化した違いや原因を分析する中で、広報、啓発の仕方を一つずつ考えていく必要がある。啓発の仕方や救済方法を検討するには人員も労力も必要だと思うが、教育や行政を担う人が、解決のための努力をこれからも続けていく必要があると思う。

(委員)

見えるものだけではなく見えないものにも目を向けることが、人権への配慮となる。

お互いにお互いを知って、お互いに助け合うという自助・互助・共助の気持ちが大事ではないかと思っている。

子どものいじめや教職員の人権侵犯事案が多いことに驚いた。教育に関しても、取組みだけではなく、解決事例も発表すると現実が見えてきてよいのではないかと思う。

(委員)

コロナの人権問題に関しては、発生時に隠すことで「良くないことだ」と反射的に受け取り噂で広がってしまうため、オープンにした方がよいのではないかと思う。コロナで会議が開催されないことが多いが、コロナの人権問題は議論して取り組んでいく必要があると思っていた。「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」という啓発冊子は、大変良いため多くの人に配布してほしい。

いじめと児童虐待については、子どもは自分が被害にあっているということを外に向かって言わないため、誰かに聞いてもらえるような場があるとよいと思う。小中学生向けには、オープンな掲示板などがあれば、そこに書き込むのもよいと思う。ネットパトロールの中で、時々その掲示板を見て、問題の発見ができるとういのではないかと思う。

(委員)

宮澤章二の「行為の意味」という詩集の中で、「心は見えないけれど、心遣いは誰にでも見える。思いは見えないけれど、思い遣りは見える。」という詩がある。心や思いを相手のところに遣わすという共感と寛容の能力が問われている。

「人権」という言葉は明治時代に作られ、国内に広がってからまだ75年程しか経っていない。漢字2文字からスタートするのではなく、身近なところから深く感じ、広く考えることが大事である。

(委員)

幅広い人権問題に対する県のそれぞれの取組みは非常に心強いが、まだ出発点ではないかと思っている。

コロナハラスメントの例で言えば、相談窓口の設置や啓発活動の取組み等を整備することは必要であり心強いことであるが、その後の相談を受けた行政の担当者が、どのような対応をするのかによって、かえって逆効果になる可能性もある。具体的な解決のためのアプローチの仕方を一つ一つの人権問題について検討いただく必要があると感じた。

(委員)

明るみに出されているという面もあるかもしれないが、いじめが多いのは事実である。

コロナハラスメントの取組みを行う岐阜県は、全てのハラスメントの根絶を目指していくということに本気で取り組んでいる、と私は受け止めている。ハラスメントや人権というのは、長期戦であり、毎日が勝負であり、また、それなりの具体的な手を打たなければならない。本気を示す絶好のチャンスであるため、例えば学校では、あまりにも仕事が多く教員は悲鳴を上げているので、教員の数を全面的に大幅に増やし、教員の質を高めるためにも処遇をよくしてほしい、と先日の意見交換会の場でもお願いしたところである。

人権の面でレベルの高い県にすることによって、経済が潤い、世界でも活躍する人材が育っていく。長期戦ではあるが、教育のレベルを上げることが、人権を大事にする子どもたちを育て、それが基盤になって本当の学力や体力がついていくことになり、大事なことだと感じている。

(委員)

男女共同参画については、放送局はまだまだ従業員の数や割合などにおいて男性の方が多い。やはりそういう所を変えていかないと中立的な放送ができないと思うので、変えていく必要があると思っている。

(委員)

「いのち・生き合う」というように、生き物は生き合っている、生き合う中で力をもらっているのだという実感が、人権を語る時に根底になれば、言葉が素通りしていく。

子ども達は今、ものすごく間違いを恐れている。正しいとされる答えを覚えることが勉強だと信じ込み、なぜ、どうして、不思議という、一番大事な疑問を脇に置いてしまっている。

「人権とは」「差別とは」「偏見とは」などと言っているうちに、大切なものがすり抜けていってしまう。

一方で、教員自身も正しい答えを言わなければならないという強迫観念に捉われている。教員たちが解き放たれ、間違っている、失敗している、挫折しているという、赤裸々な人間観や、人間と人間の間をもう少しフランクに話し合えるような教育現場であってほしいと思う。

(委員)

岐阜県でも三重県のように「パートナーシップ制度の導入」や「条例制定」に取り組んでほしいと思う。関市のフレンドリーシップ宣言だけでは寂しい。三重県ができるなら、なぜ岐阜県はできないのか。そのうち愛知県も実施して、中部が取組みのスタート地域になったらよいと思う。